WHO の World Health Day2025 に寄せて

沖縄県宮古保健所　所長　山川　宗貞

毎年 4 月 7 日は世界保健機構の提唱する世界保健デーです。今年のテーマは “Healthy beginnings, hopeful futures” です。例年、厚生労働省が日本語訳を発表していますが、2 月 27 日現在、まだ発表されておりません。「健康の始まり、希望溢れる未来」と私は予想しています。WHO のホームページをみると母子保健への効果的な介入をテーマとしているようです。

世界の現状として、妊娠や出産に伴い約 30 万人の女性が無くなり、200 万の赤ちゃんが生後 1 か月以内に亡くなり 100 万人以上が死産になると報告されています。そのため妊娠中から出産後の長きにわたり女性と子供やその家族を含めたサポートの重要性が今年のテーマとして強調されています。日本では、妊産婦への対応として新型コロナ流行前から出産前後のうつ病を早期にみつけサポートしていく体制が始まっています。

母子に関する日本の状況を見ると世界の状況とは異なっています。少子高齢化がますます進み、よほど積極的な介入を行わないとその回復は難しいように思えます。また、これまで言われてきている沖縄県の問題は未熟児の出産が多いことです。その原因や要因を沖縄県が平成 26 年から 28 年にかけて分析した結果は以下の通りです。

集団寄与危険割合の高い順に「37 週未満の出生」、「妊娠後期の高血圧」、「妊娠前のやせ(BMI18.5 以下)」、「妊婦の身長（150cm 未満)」、「妊娠中の喫煙」について関連が認められました。この中で「女性のやせ」には「あかちゃんすくすく」事業を、「女性の喫煙」に対しては「ちゅらまま」事業を市町村とともに行ってきました。「やせ」に関しては 10 代･20 代の「女性のやせ」や高齢者のフレイルに関して男女ともに「やせ」が問題になっておりますし、禁煙に関して近年「電子タバコ」の問題も出てきているため、公衆衛生上、保健所も市町村とともに新たな取り組みを考えていかなければなりません。「低体重児出生の要因と分析と保健指導」は多くの委員の先生方や市町村職員の協力のもと、まとめることができました。さらに低出生体重児対策・支援の一環として母子健康手帳サブブック「おきなわリトルベビーハンドブック」も作成されました。どちらも周知と活用を期待しています。

多様な生き方がいわれている今日、これが最良の状態だということは難しくなってきていますが、赤ちゃんとその取り巻く環境がより良いものになるよう対策を考えていきたいと思います。

【参考資料】

沖縄県 こども未来部 子育て支援課
https：//www.pref.okinawa.lg.jp/kyoiku/kosodate/1018557/1006168.html

「低体重児出生の要因分析と保健指導」
平成 29 年 3 月　沖縄県保健医療部
健康長寿課
「おきなわリトルベビーハンドブック」について
https://www.pref.okinawa.lg.jp/kyoiku/kosodate/1018557/1028017.html